

附 録



1. 国 宝

昭和32年12月31日現在

種 別	指定年月日	名 称	所 在 地 管 理 者		
書 跡	昭27. 3.29	紙本墨書 希玄道元筆 普勸坐禅儀 付 普勸坐禅儀撰述記	1巻 1幅	吉田郡志比村志比 曹洞宗大本山 永 平 寺	天福元年元旦書 写の奥書がある
工 芸	昭27.11.22	朝 鮮 鐘	1口	敦賀市常宮 常 宮 神 社	
工 芸	昭28. 3.31	金 銅 宝 相 華 文 磬	1面	坂井郡三国町滝谷 真言宗智山派 滝 谷 寺	劔御子寺鐘神護 景雲四年九月十 一日の銘あり
建 造 物	昭28.11.14	明 通 寺 本 堂	1棟	小浜市門前 真言宗御室派 明 通 寺	
建 造 物	〃	明 通 寺 三 重 塔	1基	〃	
工 芸	昭31. 6.28	梵 鐘	1口	丹生郡織田町織田 劔 神 社	

資 料 福井県教育委員会社会教育課

2. 重 要 文 化 財

(宝 物、 建 築 物)

昭和32年12月31日現在

種 別	指定年月日	名 称	所 在 地	管 理 者		
絵 画	明33. 4. 7	絹本著色 阿弥陀三尊 二十五菩薩来迎図	1幀	福井市緑町	浄土宗西山禅林寺派 安養寺	
工 芸	〃	鉄製 銀 象 眼 冑	1頭	福井市岩堀町62		藤 島 神 社
工 芸	明42. 9.22	糸 卷 大 刀	1口	〃	〃	正中三年備中 国吉次の銘が ある。 九月二十六日 (正中元年) とある。
工 芸	昭 5. 5.23	太 刀 銘則重	1口	〃	〃	
書 跡	大 3. 4.17	紙本墨書 結城宗広書状	1通	〃	〃	
絵 画	明39. 4.14	紙本著色 世界及び日本図六曲屏	1双	福井市川上町81	真宗大谷派 浄 得 寺	
絵 画	明33. 4. 7	絹本著色 主夜 神 像	1幅	敦賀市原13ノ7	浄土宗 西 福 寺	
絵 画	〃	絹本著色 観経変相曼荼羅図	1幅	〃	〃	
絵 画	明34. 8. 2	絹本著色 雲中阿弥陀 如来像 伝張思恭筆	1幅	〃	〃	
書 跡	大 3. 4.17	紙本墨書 経卷	20巻	〃	〃	
		大涅槃経卷第廿九	1巻	天平5年3月8日史安満侶ノ奥書アリ		
		七仏所説神咒経卷第三	1巻	天平12年5月1日ノ奥書アリ 光明皇后御願経		
		七仏十一菩薩説大陀羅 尼神咒経卷第一	1巻	天平12年5月1日ノ奥書アリ 光明皇后御願経		
		大涅槃経卷第廿九	1巻	天平宝字7年9月己知石万呂ノ奥書アリ		
		華嚴経卷第三十、卷第 三十六、卷第三十八、		卷第三十八=神護景雲2年2月13日ノ奥書アリ (孝謙天皇御願経)		
		弥 勒 下 生 経	1巻			
		仏 説 正 恭 敦 経	1巻			
		文殊師利菩薩所説咒経 卷第二	1巻			
		六 門 陀 羅 尼 経	1巻			
		仏教保護諸童子陀羅尼咒経	1巻			
		仏説阿弥陀鼓音声王陀羅 尼経	1巻			
		仏説大普賢陀羅尼經	1巻			
		仏 説 安 宅 経	1巻			

重 要 文 化 財 (続)
(宝 物、 建 築 物)

種 別	指定年月日	名 称	所 在 地	管 理 者
		文師殿陀所説神咒經 1巻		
		謗 仏 経 1巻		
		大吉義神咒經第一、 巻第二、巻第四 3巻		
		紙本墨書般若心経二条持基筆 1巻	〃	〃
建 造 物	明34. 3. 27	氣比神宮大鳥居 1基	敦賀市曙114	氣 比 神 宮
工 芸	大10. 4. 30	銅 鐘 1口	吉田郡志比村志比	曹洞宗大本山 永平寺
書 跡	明33. 4. 7	紙本墨書 後円融院宸翰 1幅	〃	〃
書 跡	〃	紙本墨書 高祖嗣書 1幅	〃	〃
書 跡	昭16. 7. 3	金銀絵料紙墨書 正治元年 明 全 戒 牒 十一月八日 1巻	〃	〃
書 跡	〃	紙本墨書孤雲懷装笠、 正法眼藏仁性第三 1冊	〃	〃
絵 画	明33. 4. 7	絹本著色 地藏菩薩像 1幀	坂井郡三国町滝谷	真言宗智山派 滝谷寺
絵 画	明23. 4. 7	絹本著色 地藏菩薩像 1幀	坂井郡三国町下西	真言宗智山派 性海寺
工 芸	昭28. 3. 31	銅 製 孔 雀 文 磐 1面	坂井郡坂井村下兵庫	真言宗智山派 大善寺
絵 画	明33. 4. 7	絹本著色 羅漢図 2幅	福井市田ノ谷	臨濟宗妙心寺派大安寺
建 造 物	昭 9. 1. 30	丸 岡 城 天 守 1棟	坂井郡丸岡町	坂 井 郡 丸 岡 町
建 造 物	昭16. 11. 6	須波阿須疑神社本殿 1棟	今立郡池田村稻荷	須 波 阿 須 疑 神 社
絵 画	大 3. 4. 17	絹本著色 入相涅槃図 1幅	丹生郡織田町織田	劔 神 社
彫 刻	昭16. 11. 6	付紙本墨書、涅槃講式断簡 1巻	〃	〃
彫 刻	昭16. 11. 6	木造不動明王立像 1軀	福井市	天 合 宗 大 谷 寺
建 造 物	昭15. 2. 23	石 造 九 重 塔 1基	〃	〃
彫 刻	明34. 8. 2	木造大日如来坐像 1軀	小浜市尾崎	臨濟宗南禅寺派円照寺
彫 刻	昭16. 11. 6	木造不動明王立像 1軀	〃	〃
建 造 物	明34. 3. 27	妙 楽 寺 本 堂 1棟	小浜市野代	高野山真言宗 妙楽寺
彫 刻	昭30. 1. 11	木造千手観音立像 1軀	〃	〃
建 造 物	大13. 4. 15	神 宮 寺 本 堂 1棟	小浜市神宮寺	天 合 宗 神 宮 寺
建 造 物	〃	神宮寺仁王門(入脚門) 1棟	〃	〃
彫 刻	昭16. 11. 6	木造男神坐像 1軀	〃	〃
彫 刻	〃	木造女神坐像 1軀	〃	〃
彫 刻	明34. 8. 2	木造薬師如来坐像 1軀	小浜市国分53ノ1	曹 洞 宗 国 分 寺
彫 刻	大 2. 8. 20	木造阿弥陀如来坐像 1軀	小浜市金屋	高野山真言宗 万徳寺
絵 画	明34. 8. 2	絹本著色 弥勒菩薩像 1幅	〃	〃
彫 刻	大10. 4. 30	銅造薬師如来立像 1軀	小浜市竜前	曹 洞 宗 蓮 花 寺
彫 刻	明34. 8. 2	木造十一面観音立像 1軀	小浜市羽賀	高野山真言宗 羽賀寺
彫 刻	昭16. 11. 6	木造千手観音立像 1軀	〃	〃
彫 刻	〃	木造毘門天立像 1軀	〃	〃
書 跡	明34. 8. 2	像内に治承二年七月廿四日の銘あり 紙本墨書 羽賀寺縁起 1巻	〃	〃
絵 画	明34. 8. 2	陽光院太上天皇後陽成天皇宸翰 絹本著色 大日如来像 1幅	小浜市酒井	日 蓮 宗 長 源 寺
工 芸	明45. 2. 8	太 刀 1口 銘宗(以下一字不明) 伝宗近	小浜市遠敷	若 狭 彦 神 社

嘉暦二年八月廿四日鑄造ノ銘アリ

奥ニ道元ノ識語アリ
仁治四年書写
正嘉二年校合ノ奥書アリ

背面に若狭国一宮本地、宝治二年戊申六月日ノ銘がある。

重 要 文 化 財 (続)
(宝 物、建 築 物)

種 別	指定年月日	名 称	所 在 地	管 理 者
絵 画	昭24. 2. 18	紙本著色若狭国鎮守神人絵系図1巻 付紙本墨書 節文系図 1巻	小浜市遠敷	若狭彦神社
書 跡	大 3. 4. 17	紙本墨書 印 可 状 1幅 建武四年十二月梵竺仙トアリ 付紙本墨書 履 踐 集 1冊 觀心二年八月法延ノ自序アリ 付紙本墨書 大高重成状 1幅 5月13日トアリ 付絹本著色 大年和尙像 1幅 弘治2年ノ賛アリ	小浜市青井	臨濟宗南禅寺派高成寺
彫 刻	昭16. 11. 6	木造薬師如来坐像 本堂安置1軀	小浜市門前	真言宗御室派 明通寺
彫 刻	〃	木造降三世明王立像 1軀	〃	〃
彫 刻	〃	木造深沙大將立像 1軀	〃	〃
彫 刻	〃	木造不動明王立像 1軀	〃	〃
彫 刻	大 7. 4. 8	銅造如意輪観音半跏像 (観音堂安置)	小浜市太良庄	正 林 庵
彫 刻	大10. 4. 30	木造聖観音立像 1軀	遠敷郡上中町無悪	曹 洞 宗 安 楽 寺
彫 刻	昭 3. 8. 17	木造十一面観音立像 1軀	遠敷郡上中町脇袋	真宗大谷派 法 順 寺
彫 刻	大10. 4. 30	木造千手観音立像 1軀 付紙本墨書 千手千眼陀羅尼經 応徳元年11月10日加點ノ奥書アリ	大飯郡大飯町万願寺	曹 洞 宗 意 足 寺
彫 刻	〃	木造不動明王坐像 1軀	大飯郡大飯町大島	臨濟宗相国寺派常禅寺
彫 刻	昭 3. 8. 17	木造阿弥陀如来坐像 1軀	〃	高野山真言宗 長楽寺
彫 刻	〃	木造多聞天立像 1軀	〃	〃
彫 刻	昭16. 11. 6	木造毘沙門像 吉益天 善賦師童子立像 3軀	大飯郡大飯町浦底	臨濟宗相国寺派游雲寺

資 料 福井県教育委員会社会教育課

3. 文 部 省 認 定 重 要 美 術 品
(未 指 定 文 化 財)

昭和32年12月31日現在

種 別	認定年月日	名 称	所 在 地	管 理 者
工 芸	昭18. 10. 1	金銅聖観音像御正体 1枚	鯖江市東小路	壺 田 喜 三 郎
建 造 物	昭24. 5. 28	住 宅 1棟	敦賀市市野々	柴 田 専 次
絵 画	昭16. 2. 16	紙本著色 十六羅漢像 16幅	坂井郡丸岡町楽間	酒 井 利 雄
工 芸	昭14. 7. 13	銅製白牙弹琴鏡 1面	今立郡池田村稻荷	宮 本 碩
彫 刻	昭24. 5. 28	木造能面天神 1面	今立郡池田村稻荷	須波阿須疑神社
建 造 物	昭14. 2. 21	石造宝塔 1基	丹生郡朝日町大谷寺	鈴木治良左衛門
彫 刻	昭16. 9. 24	木造泰燈 清定行者 臥行者 3軀	〃	〃

4. 選 定 無 形 文 化 財

(旧法によるもの) (未指、選定)

昭和32年12月31日現在

種 別	選定年月日	名 称	所 在 地	管 理 者
民俗芸能	昭25. 3. 31	水海の田楽能舞	今立郡池田村水海	鶴 甘 神 社
〃	昭27. 3. 29	かんこ踊	大野市五箇町上打波	〃
工芸技術	〃	墨流し	武生市蓬萊町37	広 場 治 左 衛 門

資 料 福井県教育委員会教育課

5. 史 跡、名 勝、

区 別	名 称	所 在 地	説 明
史	灯 明 寺 寮 新田義貞 戦没伝説地	福井市福万	明暦二年に藤島郷の農民が地中から古兜を発見したことに始まり、世にいわゆる新田塚と称せられる所である。藤島神社の旧社地で今はその附属地である。
	西 山 光 照 寺 趾	足羽郡足羽村安波賀中島	文明三年朝倉氏が一乗谷に城を構え五代百余年間越前を支配して小京都といわれた頃の全盛時代の寺院趾で一乗谷北方足羽川に面した山麓にある。本堂及庫裡の趾があり、本堂趾の前面参道の両側には室町時代の銘のある石仏が併立している。
	丸 岡 藩 砲 台 趾	坂井郡三国町梶	嘉永五年二月高島秋帆の門人栗原氏の計画になつたもので胸面は外面土砂で被覆し内面側面に石積としてほぼ弓形をなしている。東西約33米、高さ約1米8、五箇の砲門を開き三個は北方に向い、両端のものは各側方に向つている。丸岡藩の砲台で、幕末沿岸防備の為に設けた。
	金ヶ崎 城 趾	敦賀市泉	敦賀市の東方に位する半島部にある。延元元年十月新田義頭が、皇太子恒良親王、尊良親王を奉じて立籠つた所で翌年三月城遂に陥り尊良親王は自刃し新田義頭以下数百人が戦没したところである。城地の主要部は今金ヶ崎の境内で其背面の高所は城戸、燃米出土地、月見御殿趾等がある。
	柚 山 城 趾	南条郡南条村 阿久和 中小屋 入会 同 今庄町社谷	日野川の東方にそびえる 山岳の頂上を利用したもので(海拔492米)殊に東北面は岩石聳立して峻険である此の地方では俗に城山と云い、代々瓜生氏の居城であつた地で、山城としては要害の地である。
跡	武田耕雲斎等墓	敦賀市松島	元治元年10月水戸藩士武田耕雲斎の党西上の途次越前に入り12月新保宿で大雪に遭い遂に幕府に降つた。翌年2月耕雲斎以上354名を斬首したが 今の墓地は当時の刑場で遺骸を埋めた所である。
	白 山 平 泉 寺 城 趾	勝山市平泉寺町 白山神社境内	養老元年四月泰澄が白山を踏開いて靈異を感じ、ついで寺を創めたと伝えられるわが国屈指の大寺院で応仁文明の頃は一山三千坊の盛時を現出して幾多の僧兵を蓄え、その勢力は熾んであつた。此処には権正成の墓があり、湊川の建碑の約30年前に建つたものである。
	西 塚 古 墳	速吸郡上中町脇袋	大字脇袋の水田中にある。元前方後円型の古墳であり長さ約67米、封土は三段に築かれ南面して完全な瓢型をしていたが大正5年に小浜線工事の際前方部を削り後円部に及んだ時石室を発見したが漢式鏡、甲冑 純金率入耳飾、直刀、鉄簇、円玉、管理等を検出した。今石室及後円部の大半を保存しているが、附近の古墳と共に、若狭国造の祖の墳墓と称せられている。
	上 の 塚 古 墳	同 上	西塚古墳の東南約80米の処にある。完全な前方後円型の古墳で三段階を有し、いわゆる段塚の種類である。主軸はほぼ南北に向い後円部は南に前方部は北にある長さ約83米6、後円部の径約51米、高さ51米ある。周囲をめぐる水田は塚趾と推定せられる。此の地方で最整美している古墳である。
	中 塚 古 墳	同 上	上の塚古墳の東北民家の間にある。瓢型古墳である。三段に築かれ南面している。長さ約58米、後円部の高さ約7米、周囲は多少削られたが略その形状はうかがわれる。有数の古墳である。

天 然 記 念 物

昭和32年12月31日現在

指 定 年 月 日	地籍又は物件	管 理 者	順 路	備 考
大正13年12月 9日	882坪	藤 島 神 社	京福電鉄三芦線新田塚より0.2軒	重要な伝説地として指定された
昭和 5年 7月 8日	4 858坪	足羽郡 足羽村	北陸線福井駅より10軒 県バスの便あり	社寺の趾跡として指定された
昭和 5年 8月25日	184坪	坂井郡 三国町	京福電鉄三芦線 三国港駅よりバスの便あり	防塁として指定された
昭和 9年 3月13日	21489坪	敦 賀 市	北陸線敦賀駅より2.7軒	古城城趾として指定された
昭和 9年 3月13日	509 677坪	南条郡 南条村 〃 今庄町	北陸線鱒波駅より4軒	古城趾として指定された
昭和 9年12月28日	256坪	敦 賀 市	北陸線敦賀駅より2.7軒	著名なる人物の墓として指定
昭和10年 8月27日	40 799坪	勝山市平泉寺町 白山神社	京福電鉄越前線 六呂師口駅より3軒 勝山駅より4軒	古城趾として指定された
昭和10年12月24日	1 355坪	遠敷郡 上中町	小浜線三宅駅より1軒	古 墳 考古学上に重要な遺跡として指定
同 上	665坪	同 上	同 上	同 上
同 上	160坪	同 上	同 上	同 上

史 跡、名 勝、

区 別	名 称	所 在 地	説 明
史	上 船 塚 古 墳	遠敷町上中町日笠	日笠山の麓にある。前方後円型の古墳であり封土はほぼ三段に築かれ西に面している。長さ約76米、後円部の径約29米、高さ約9米、前方部の径約43米、高さ後円部に等しく上の塚古墳に似ている。従来若狭国造の墳墓として此の地方の著名な古墳である。
跡	下 船 塚 古 墳	同 上	上船塚古墳の北にある。前後方円型の古墳で封土は三段に築かれ西に面している。長さ約80米、後円部の径約40米、高さ約80米、前方部の径約32米、高さ約8米である。上船塚古墳と隔てて相対して同様の伝説があり、この地方の国道を著名な古墳である。
史跡及名勝	一乗谷 朝倉氏館趾 附 南陽寺趾	足羽郡足羽村城戸の内	上掲史跡西山光照寺趾説明にある朝倉氏の全盛を偲ぶもので今二ヶ所にその趾がある。一は三方に腰垣、石垣土塁をめぐらし、外方に濠趾がある。又園地、石組等から旧規がうかがわれ正面に唐門がある。一は諏訪館趾と云い義景の妻の別邸趾と伝えられる。朝倉氏館趾の東方高処に南陽寺趾がある。義景が足利義昭のために觸櫓の宴を催した処と伝えられる。
名 勝	気 比 の 松 原	敦賀市松島 櫛川	東は敦賀の街に接し北は敦賀湾に沿っている。白砂に生えた松翠は千古の色を水に映して顕景絶佳である。
	滝 谷 寺 庭 園	坂井郡三国町滝谷	築造年月日は詳でないが、徳川中期の作か、林泉は本堂より書院に亘りて丘陵の斜面に築せられ、山脚の露岩を利用して小池を築き古松之に臨みつつじ等の矮樹を配し、石を立て灯籠を置き椎、樅、高野槇の巨樹を背景として丘地に係る山水型庭園の佳作である。
	旧 玄 成 院 庭 園	勝山市平泉寺町	旧平泉寺玄成院の庭園で慶長年間に作造せられたものらしい。前方に平地を構え後方は斜面に依っている。脚下に乾池があり北西に偏つて小池があり園の背後には杉、樅等の老樹が生い茂り、つつじが処々にあつて数基の石灯籠が配置せられて閑寂の景趣に富んでいる。
	万 徳 寺 庭 園	小浜市金屋	延宝年間本寺移築の時築造せられたものらしい。殿堂の南面山麓を利用して庭を作つたもので、東南部に天然記念物指定の威威樹がある。此の庭は寺庭として幽邃なる佳園である。
	西 福 寺 書 院 庭 園	敦賀市原	築造の年代不詳であるが徳川中期らしい。山庭としては特殊の佳趣を有するものである。
	柴 田 氏 庭 園	敦賀市市野々	元祿の初年柴田氏の祖権右衛門の築造で後しばしば藩主の休所となつた。景としての野坂山の秀峯を遠望し築山泉水庭として澗雅の中雄勁の趣を存している。
	伊 藤 氏 庭 園	南条郡今庄町瀬戸	伊藤氏七代の祖医者助左衛門に依り享保前後当時流布した庭園図本を規として作造せられたものである。築山泉水の小庭として良く保存せられている。
	若 狭 蘇 洞 門	小浜市	小浜湾を抱く内外海半島の北岸にある。背面又は外面とも響き若狭第一の絶景である。その大部分は久須夜岳をなせる花崗石が特有の方状節理に沿うて怒濤に侵蝕せられ大門、小門、唐船島（一名朝鮮島）華洞門、烏帽子岩、潜り穴等多数の洞窟、危懸断崖を生じたもので、最もよく花崗岩特有の海岸の風景を表現している。

天 然 記 念 物 (続)

指 定 年 月 日	地籍又は物件	管 理 者	順 路	備 考
昭和10年12月24日	1 374坪	遠敷郡 上 中 町	小浜線新平野駅より 0.4杆	同 上
同 上	2 186坪	同 上	同 上	同 上
昭和 5年 7月 8日	4 216坪	足羽郡 足 羽 村	北陸線福井駅より12杆 県バスの便あり	由緒ある旧宅著名なる庭園社寺の趾跡として指定
昭和 3年 6月28日	114 788坪	農 林 省	北陸線敦賀駅より 2.7杆	松林ある砂丘として指定
昭和 4年12月17日	515坪	坂井郡三国町 滝 谷 寺	京福電鉄三芦線 三国駅より 0.5杆	著名なる庭園として指定
昭和 5年10月 3日	325坪	勝山市平泉寺町 白 山 神 社	京福電鉄越前線 勝山駅より 4杆	同 上
昭和 7年 3月25日	902坪	小浜市金屋 万 徳 寺	小浜線新平野駅より 4杆	同 上
昭和 7年 4月19日	1 432坪	敦賀市原 西福寺	北陸線敦賀駅より 6杆	同 上
同 上	708坪	敦 賀 市	北陸線敦賀駅より 4杆 敦賀駅よりバスの便あり	同 上
同 上	109坪	南条郡 今 庄 町	北陸線今庄駅より12杆 福井より県バスあり	同 上
昭和 9年 1月22日	120 649坪 外 海 面	小 浜 市	小浜線小浜駅下車	著名なる奇岩著名なる海岸として指定

史 跡、名 勝、

区 別	名 称	所 在 地	説 明
名 勝	三 方 五 湖	三 方 郡 三 方 町 美 浜 町	最南を三方湖、其の北を水月湖、其の東を菅湖、其の北を久々子湖、更にその西を日向湖という。最も大きいのは水月で、三方、久々子之に垂き、菅湖は最も小さい。有名なのは三方湖で三方、水月、久々子の三湖を総称に三方湖という。日向湖は鹹水の浸入があるが他の四湖は淡水湖である。湖水の附近は長勝に富んでいる。
特別天然記念物	石 徹 白 の 杉	大野郡石徹白村石徹白	杉の代表的巨樹で十二抱もあるというので、此の地方では俗に十二抱えの大杉とも言われている。
天 然 記 念 物	常 神 の 蘇 鉄	三方郡三方町常神	蘇鉄の代表的巨樹である。
	小浜神社の九本だも	小浜市竹原 小浜神社境内	いぬぐすの巨樹で、根元から九本となつているので此の名がある。根元の全周囲約11米である。
	万徳寺のやまのみぢ	小浜市金屋 万徳寺庭園内	目通幹囲 約3.7米やまのみぢの巨樹である。
	本願潛水いとよ棲息地	大 野 市	いとよの棲息地として本邦有数のものである。この地に産するいとよは海に降ることなく五月頃より秋に亘り雄は池底に巣を構え蓄殖の後その巣を齧り稚魚を養育するのである。
	越 の 犬	全 県	主として北陸地方に飼養せられるもので、中北系、日本犬に類するものである。中堅、四肢強健、飛節能く発達し毛は粗で綿毛が多い。
	あられがこ 棲息地	大野市、勝山市 坂井郡丸岡町 吉田郡上志比村 外5市町村	かじか属の魚で大きさは体長300耗に達する。晩秋より初冬に亘り河を降り、河口付近で蓄殖する。
	専福寺の大樫	大野市友兼 専福寺境内	目通幹囲約10米上方に大庭起があり老樹であるが巨樹として有数のものである。
	杉森神社の御葉附銀杏	大飯郡高浜町 杉森神社境内	二株あつて、一は社殿の東方山腹に立ち、目通幹約3米、一は社殿の南側にあつて目通幹囲約2.8米である、共に葉上結実する。
	蒼島 暖地性植物群落	小浜市加斗	蒼島は小浜湾に浮ぶ小島でナタオレの木を始め 192種の植物が生えているが、ナタオレの木の最大のもの周囲は 2.5米にもなっているものがある。
	東 尋 坊	坂井郡三国町(雄島)	九頭竜川の河口に当っている三国港から雄島を経て雄島村掘浦に至る間の海岸で基盤は第三紀層より成り柱状節理をなしている。種々の火山岩之を貫いているその中、東尋坊岬に近く既出しているのは、直立の粗大な柱状節理を呈している複輝石安山岩で、その海に面し絶壁をなしている部分は古来東尋坊という。雄島は一種のかんらん輝石安山岩よりなり柱状節理斜に発達して豪快なる汲蝕景を呈している。

天 然 記 念 物 (続)

指 定 年 月 日	地籍又は物件	管 理 者	順 路	備 考
昭和12年 6月15日	三方郡三方町 美浜町	三方郡 三方町 美浜町	小浜線河原市駅より 1.3軒	著名なる湖水として指定
昭和32年 7月 2日	一 株	大野郡 石徹白村	京福電鉄越前線 大野三番駅より 48軒	巨樹として指定
大正13年12月 9日	一 株	三方郡 三方町	小浜線河原市駅より18軒	同 上
昭和 6年 3月30日	一 株	小浜市竹原 小浜 神社	小浜線小浜駅より 1軒	同 上
昭和 6年 6月30日	一 株	小浜市金屋 万 徳 寺	小浜線新平野駅より 4軒	同 上
昭和 9年 5月 1日	479坪	大 野 市	京福電鉄越前線	池地における特有の動物 群として指定
昭和 9年12月28日		福 井 県	大野三番駅より 1.5軒	日本に特有なる齧齧動物 として指定
昭和10年 6月 7日	大野市花房地先 より福井市舟橋 新地先に至る九 頭竜川河川敷	福 井 県		河海に於ける特有の動物 群 全部
昭和10年 6月 7日	一 株	大野市友兼 専 福 寺	京福電鉄越前線 大野三番駅より 6軒	巨樹として指定
昭和10年 8月27日	126坪	大飯郡高浜町 六路谷 杉森 神社	小浜線高浜駅より 4.5軒	名木として指定
昭和26年 6月 9日	2 136坪	小 浜 市	小浜線加斗駅より 2軒	
昭和10年 6月 7日	94 927坪および 500歩 以内の海 面及び岩礁	坂井郡 三国町	京福電鉄三芦線 三国港駅よりバス及び 舟の便あり	岩石及び鉱物の露出、火 山岩の種々の構造、浸蝕 に関する現象著名なる奇 岩、著名なる海岩島嶼と して指定

6. 置県以来の長官 (知事)

7. 歴 代 議 長

昭和 32 年 12 月 31 日現在

官 名	氏 名	就任年月日	在任年月	
		年 月 日	年 月	
県 令 知 事	石 黒 務	明治14. 2. 7		
	〃	〃 19. 7.19	8. 1	
	安 立 利 綱	〃 22. 2.27	2. 8	
	〃	牧 野 伸 顕	〃 24. 8.13	1. 3
	〃	荒 川 邦 義	〃 25.11.16	4. 6
	〃	波多野 伝三郎	〃 30. 4. 7	0. 7
	〃	関 新 吾	〃 30.11.13	1. 6
	〃	岩 男 三 郎	〃 32. 4. 7	2. 0
	〃	宗 像 政	〃 34. 4.17	0.10
	〃	阪 本 鈔之助	〃 35. 2. 8	5.11
	〃	中 村 純九郎	〃 40.12.27	4. 3
	〃	池 松 時 和	〃 45. 3.28	1. 2
	〃	香 川 輝	大正 2. 6. 1	1. 0
	〃	佐 藤 孝三郎	〃 3. 6. 9	2. 7
	〃	川 島 純 幹	〃 6. 1.29	2. 2
	〃	湯 地 幸 平	〃 8. 4.18	1. 1
	〃	白男川 讓 介	〃 10. 5.27	3. 0
	〃	福 永 尊 介	〃 13. 6. 4	0. 2
	〃	豊 田 勝 藏	〃 13. 7.23	2. 0
	〃	市 村 慶 三	〃 15. 8. 5	1.10
	〃	小 浜 浄 鉦	昭和 3. 5.25	2. 3
	〃	斎 藤 直 橋	〃 5. 8.26	1. 4
	〃	小 浜 浄 鉦	〃 6.12.18	6. 4
	〃	大 達 茂 雄	〃 7. 3. 8	2. 1
	〃	近 藤 駿 介	〃 9. 4. 9	2. 0
	〃	羽 生 雅 則	〃 11. 3.13	1. 8
	〃	中 野 与吉郎	〃 12.11. 4	1. 5
	〃	木 村 清 司	〃 14. 4.17	1. 8
	〃	久保田 峻	〃 15.12.14	1. 1
	〃	三 好 重 夫	〃 17. 1. 9	0. 5
	〃	永 野 若 松	〃 17. 6.15	1. 1
	〃	加 藤 初 夫	〃 18. 7.16	1. 9
〃	宮 田 笑 内	〃 20. 4.21	0. 8	
〃	斎 藤 武 雄	〃 21. 1.25	0. 8	
〃	小 幡 治 和	〃 21.10. 4	0. 5	
〃	吉 川 覚	〃 22. 3.14	-	
知事代理	北 栄 造	〃 22. 3.20	0. 1	
〃(公選)	小 幡 治 和	〃 22. 4.16	4. 0	
〃 代理	河 野 延 敏	〃 26. 4. 5	0. 1	
〃(公選)	小 幡 治 和	〃 26. 5. 3	3. 9	
〃(公選)	羽 根 盛 一	〃 30. 4.23	現在に 至る	

氏 名	就任年月日	在任年月
	年 月 日	年 月
本 多 昇 介	明治14. 7.18	1. 8
山 田 稔	〃 16. 3.17	1. 3
時 岡 又左衛門	〃 17. 6.23	0. 9
本 多 昇 介	〃 18. 3. 2	0. 8
竹 尾 茂 一	〃 18.11.13	0. 1
本 多 昇 介	〃 18.12. 4	0. 9
永 田 定右衛門	〃 19. 9. 7	2. 5
杉 田 定 一	〃 22. 2. 4	0. 8
本 多 昇 介	〃 22.10.27	1.11
〃	〃 24. 9.16	2. 0
〃	〃 26. 9. 1	3.11
市 橋 保治郎	〃 30. 8.31	0. 2
片 山 政治郎	〃 30.10.18	2. 0
鷺 田 土三郎	〃 32.10. 7	4. 0
中 山 茂 樹	〃 36.10.21	2. 1
大 橋 松次郎	〃 38.11.10	1.11
吉 田 円 助	〃 40.10.21	0.11
熊 谷 五右衛門	〃 41. 9.14	3.10
大 橋 松次郎	〃 44.10.15	1. 2
植 村 善四郎	大正 1.12. 5	2.10
広 江 幸 吉	〃 4.10.13	1. 1
池 田 七郎兵衛	〃 5.11.14	2.11
〃	〃 8.10.18	0. 1
藤 田 一	〃 8.11.18	2. 0
義 江 民 次	〃 10.11.10	0. 3
〃	〃 11. 2.25	1. 8
窪 田 彦左衛門	〃 12.10.14	4. 0
池 田 七郎兵衛	昭和 2.10.14	4. 0
田 保 仁左衛門	〃 6.10.15	4. 0
恩 地 政右衛門	〃 10.10.21	3. 2
田 保 仁左衛門	〃 13.12. 7	0.10
酒 井 利 雄	〃 14.10.16	2. 9
松 田 輝 治	〃 17. 7. 3	4. 4
野 村 栄太郎	〃 22. 5.21	0.11
高 波 武右衛門	〃 23. 4.30	1. 0
勝 見 厚	〃 24. 4.30	1. 2
野 村 栄太郎	〃 25. 6.15	0.10
杉 山 孝 二	〃 26. 5. 3	1. 0
市 橋 勘左衛門	〃 27. 5.17	1. 5
長谷川 清	〃 28.10.28	1. 5
寺 田 常 吉	〃 30. 5.20	1. 6
今 沢 東	〃 31.12.27	現在に至る

第 4 回

福 井 県 統 計 年 鑑

昭 和 3 1 年 度

昭 和 3 3 年 3 月 1 0 日 印 刷

昭 和 3 3 年 3 月 3 1 日 発 行

編集兼発行者 福 井 県 統 計 文 書 課
福井市御本丸町一番地

印 刷 所 齋 藤 印 刷 所
鯖江市上深江町一〇八

